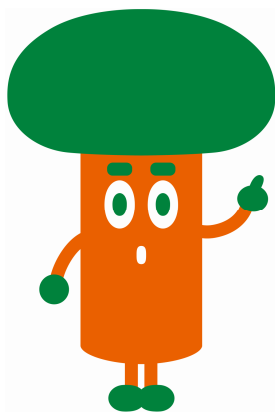


2026年度 第1四半期運用実績(速報)



国民年金基金連合会

1. 2026年度第1四半期の市場環境

主要国の株式市場は、不透明な中東情勢や日米の長期金利上昇を背景に一時的に上値の重い局面もみられましたが、AI・半導体関連銘柄を中心としたハイテク株の上昇がけん引役となりました。加えて、中東情勢の緊張緩和期待や原油価格の下落が投資家心理の改善につながり、主要国株式市場は大幅に上昇しました。主要国の長期金利は、日本ではインフレ期待の高まりや財政拡張への懸念などを背景に上昇しました。米国でも堅調な経済指標を受けて金融緩和期待が後退したことから、長期金利は上昇しました。外国為替市場では、日本におけるインフレ期待の高まりや財政悪化懸念に加え、米国で金融引締めが長期化するとの見方が強まったことなどから、米ドル円相場、ユーロ円相場ともに円安が進行しました。

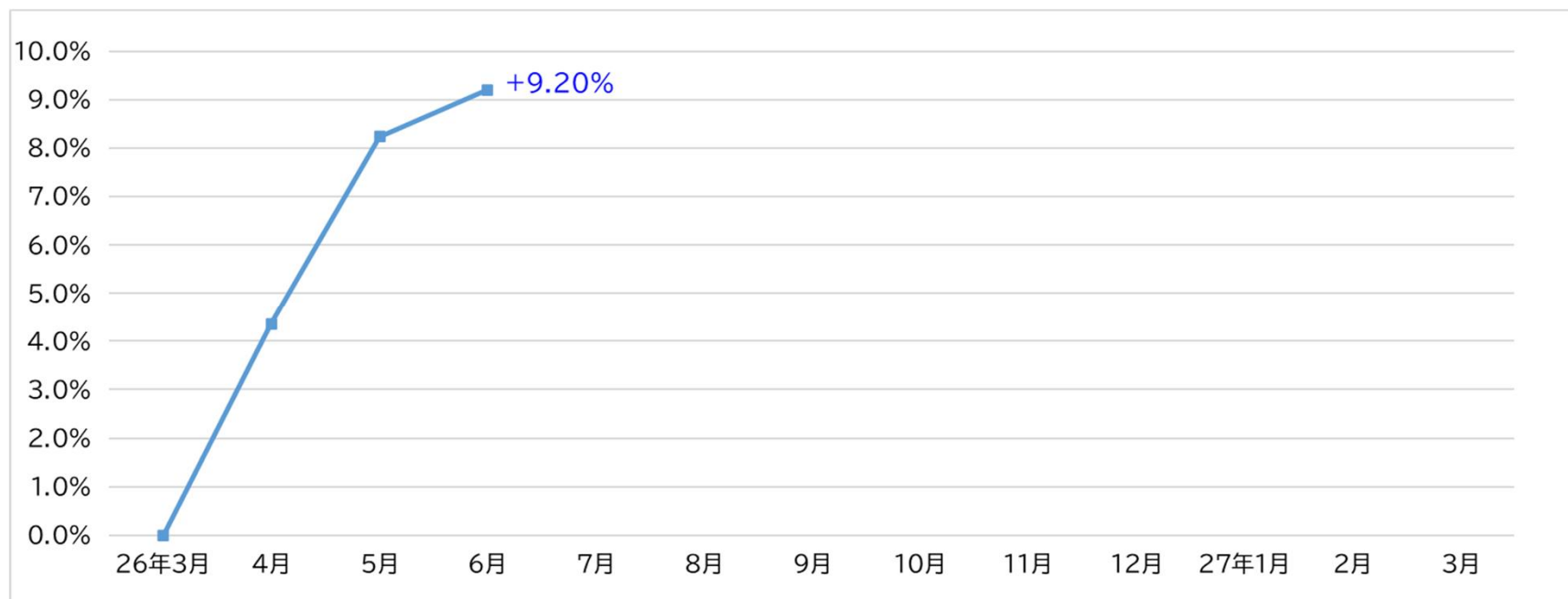
(1) 主要指標の推移

		2026年3月末	2026年4月末	2026年5月末	2026年6月末
国内債券	10年国債利回り (%)	2.35	2.52	2.65	2.67
	日経平均 (円)	51,063.72	59,284.92	66,329.50	70,062.32
国内株式	TOPIX (ポイント)	3,497.86	3,727.21	3,957.17	3,994.76
	米10年国債利回り (%)	4.32	4.37	4.44	4.47
外国債券	独10年国債利回り (%)	3.00	3.04	2.94	2.86
	NYダウ (米ドル)	46,341.51	49,652.14	51,032.46	52,319.20
外国株式	S&P 500 (ポイント)	6,528.52	7,209.01	7,580.06	7,499.36
	独DAX (ポイント)	22,680.04	24,292.38	25,104.70	24,995.81
為替	米ドル/円 (円)	159.09	156.71	159.19	162.53
	ユーロ/円 (円)	183.30	183.82	185.77	185.81

1. 2026年度第1四半期の市場環境

(2) 基本ポートフォリオの複合ベンチマークの推移

2026年度第1四半期の基本ポートフォリオの複合ベンチマークは、プラス9.20%となりました。これは主にグローバル株式の上昇によるものです。

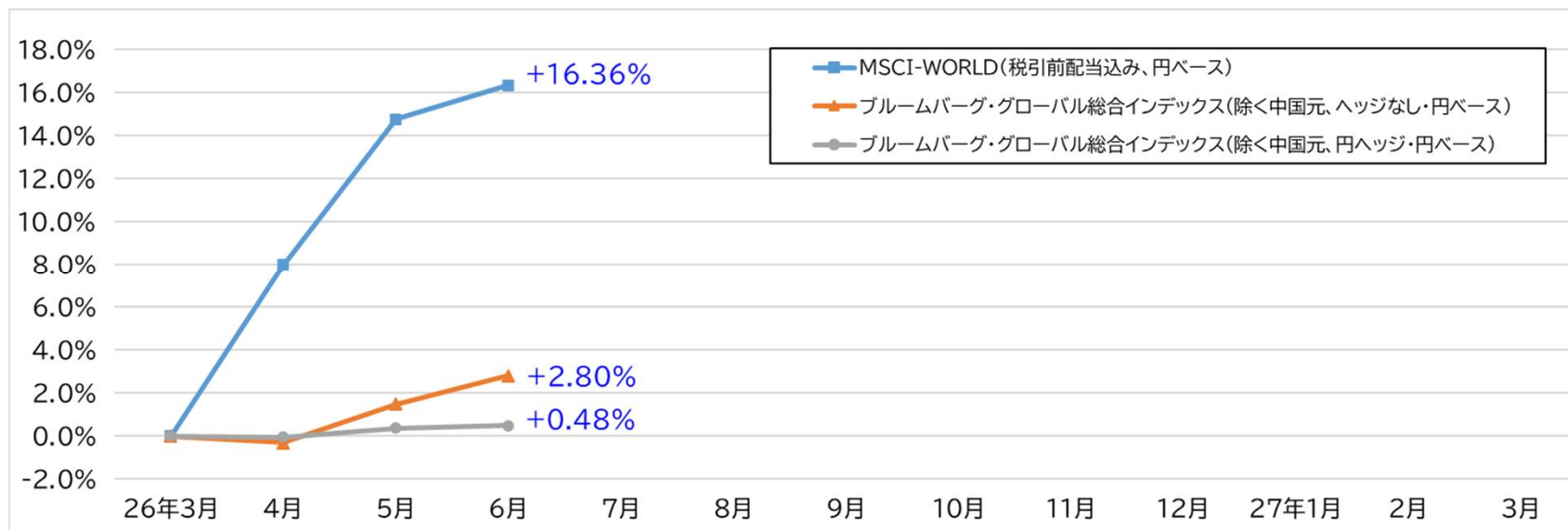


※基本ポートフォリオの複合ベンチマークは、非年率。

1. 2026年度第1四半期の市場環境

(3)基本ポートフォリオの資産クラス別ベンチマークの推移

2026年度第1四半期の各資産クラスのベンチマークは、グローバル債券(円ヘッジ)がプラス0.48%、グローバル債券(ヘッジなし)がプラス2.80%、グローバル株式がプラス16.36%となりました。



※各資産クラスのベンチマークリターンは、非年率。

<基本ポートフォリオのベンチマーク及び資産構成割合>

- ・グローバル債券(円ヘッジ):ブルームバーグ・グローバル総合インデックス(除く中国元、円ヘッジ・円ベース):39%
- ・グローバル債券(ヘッジなし):ブルームバーグ・グローバル総合インデックス(除く中国元、ヘッジなし・円ベース):6%
- ・グローバル株式:MSCI-WORLD(税引前配当込み、円ベース):55%

2. 2026年度第1四半期の運用実績

2026年度第1四半期の収益率は、グローバル株式のプラスリターンが主な要因となり、修正総合利回りでプラス8.40%、時間加重収益率でプラス8.52%となりました。
また、資産クラス別の時間加重収益率は、グローバル債券(円ヘッジ)がプラス0.55%、グローバル債券(ヘッジなし)がプラス3.04%、グローバル株式がプラス14.16%となりました。

(1)修正総合利回り

	4月	5月	6月	第1四半期
収益率	3.90%	3.30%	1.05%	8.40%

※収益率は、非年率。

(2)時間加重収益率

	4月	5月	6月	第1四半期		
				収益率	ベンチマーク	超過収益率
グローバル債券 (円ヘッジ)	0.06%	0.35%	0.13%	0.55%	0.48%	0.06%
グローバル債券 (ヘッジなし)	-0.19%	1.82%	1.40%	3.04%	2.80%	0.24%
グローバル株式	6.75%	5.28%	1.57%	14.16%	16.36%	-2.20%
連合会全体	4.00%	3.31%	1.00%	8.52%	9.20%	-0.68%

※ベンチマークは、基本ポートフォリオにおける資産クラス別ベンチマークを指す(P3ご参照)。収益率は、非年率。

3. 2026年度第1四半期の資産状況

2026年6月末の積立金残高は、6兆2,638億円となりました。
2026年6月末の構成比は、グローバル債券(円ヘッジ)が38.6%、グローバル債券(ヘッジなし)が6.1%、グローバル株式が55.3%となりました。
なお、当四半期中、グローバル株式の乖離幅が許容乖離幅を超えたため、グローバル株式からグローバル債券(円ヘッジ)、グローバル債券(ヘッジなし)への資産間リバランスを実施しました。

(1) 積立金残高(2026年6月末)

6兆2,638億円(前年度末比:4,356億円増加)

(2) 資産構成割合(2026年6月末)

	基本ポート フォリオ 資産構成 割合	許容乖離幅 (上限)	許容乖離幅 (下限)	2026年6月末		※ 乖離幅
				残高 (億円)	(構成比)	
グローバル債券 (円ヘッジ)	39%	5.0%	-5.0%	24,191	38.6%	-0.4%
グローバル債券 (ヘッジなし)	6%	5.0%	-5.0%	3,803	6.1%	0.1%
グローバル株式	55%	5.0%	-5.0%	34,645	55.3%	0.3%
全体	100%			62,638	100.0%	

※乖離幅は、基本ポートフォリオ資産構成割合からの乖離幅

4. 参考資料

【用語集】

◆ 修正総合利回り ◆

修正総合利回りは、簿価ベースである分母の元本平均残高に未収収益、評価損益を加え、総合利回りよりさらに時価ベースに近づけようとしたものです。

$$\text{修正総合利回り} = \frac{(\text{当期実現損益} + \text{当期末未収収益増減額} + \text{当期評価損益増減額})}{\div (\text{元本平均残高} + \text{前期末未収収益} + \text{前期末評価損益})} \times 100(\%)$$

(ご参考)

$$\text{総合利回り} = (\text{当期実現損益} + \text{当期末未収収益増減額} + \text{当期評価損益増減額}) \div (\text{元本平均残高}) \times 100(\%)$$

◆ 時間加重収益率 ◆

運用期間中に発生したキャッシュフローの影響を排除した時価ベースの収益率のことをいいます。最も厳密に計算する場合、キャッシュフローが発生するたびに期間(時間)を区切り、その分割された単位期間ごとに収益率を算出した上で、それらの収益率を掛け合わせ(加重)、年当たりの複利に換算します。

◆ 複合ベンチマーク ◆

複数資産に投資を行うポートフォリオ全体の運用成果の基本的な評価基準となる収益率のことをいいます。基本ポートフォリオの資産構成割合にそれぞれの資産のベンチマーク収益率を加重平均して求めます。一般的に、ポートフォリオ全体のベンチマーク(運用指標)として使用されています。